

医療・福祉が連携した街の再生

昭和六十年に旧小松島線が廃止され、また平成十二年には旅客航路がすべて廃止されました。その反面、中心市街地の再生に取り組み、生涯学習センターや市立図書館、保健センター・ミリカホールなど、様々な都市施設設備を中心市街地に集約し、現徳島赤十字病院を核とした福祉・教育・医療・就労の一大総合支援ゾーンを形成しています。

なかでも徳島赤十字病院は、二十四時間診療機能を有する「高度救命救急センター」や地域医療支援病院等の特殊機能を備え、市外に向けても大いに誇れる本市の魅力の一つとなっています。

平成一八年五月に現在の場所に新築移転した徳島赤十字病院は、平成二九年に病棟の増改築を行い、重症患者の受入病床の拡充、PET・CT（陽電子放出断層撮影）の導入によるがんの診断・治療機能の強化などを実施。多様化する医療ニーズへの対応を図っています。

また、毎月開催している「市民公開講座」や近隣高校の学生に患者さんとのふれあいをとおして看護の喜びや大切さを知ってもらう「ふれあい看護体験」、医療体験コーナーなどの様々な催し物が行われる「病院祭」など、地域と連携したイベントや事業にも取り組んでいます。



The revitalization project of the city center was launched, in order to regenerate and redevelop the area after the railway and passenger ship routes to the city center were closed. Among a variety of measures, high expectations are placed on the projects through the promotion using the Tokushima Red Cross Hospital, the goal of which is to improve the standards of the welfare, educational and medical services and the employment rate comprehensively. Additionally, many events such as the festival featuring a racoon dog, a symbol of our city, are being held to attract people in and outside of the city.

徳島赤十字病院の原点

徳島赤十字病院のルーツは、戦後復興期の昭和二十四年に小松島町立診療所が日本赤十字社徳島県支部に移管され支部診療所となったことに発します。その後、「小松島赤十字病院」として六十床での入院診療を開始し、病院の発展とともに五百十四床を有する総合病院となりました。平成十三年四月には、病院名を「徳島赤十字病院」に改称し国指定の救命救急センターを設置。平成十八年五月には現在地に病院を新築移転し、四百五床にダウンサイジングしながらも六百五十床レベルの高稼働をあげる超急性期病院として、国内で四十二施設しかない高度救命救急センターの認定を受け、名実ともに徳島県を代表する総合病院へと成長しました。

今後、徳島赤十字病院は、小松島市民のための病院という原点を忘れることなく、さらに高度先進医療・救急医療・災害拠点などの機能を充実させることにより南部医療圏の中核都市としての小松島市の地位を確たるものとし、その発展に寄与してまいります。



後藤 哲也さん
徳島赤十字病院院長

全国初 発達障がい者総合支援ゾーンが完成！

発達障がいとは、自閉症やアスペルガー症候群など、通常、幼い頃から症状が現れる脳機能障がいの総称です。どのような能力にどの程度障がいがあるかは、人それぞれであり、発達障がいは、早い段階からの周囲の理解と二人ひとりの特性に応じたきめ細やかな支援が大切です。

そこで、旧徳島赤十字病院跡地を活用し、発達障がいのある方々を、福祉・教育・医療・就労の各分野から総合的に支援する全国初の拠点づくりに着手。小松島市の花「花みずき」にちなみ、「ハナミズキプロジェクト」と名付けた取り組みが、平成二十四年四月、「発達障がい者総合支援ゾーン」として花開きました！

ゾーンには、福祉機能を担う総合窓口「発達障がい者総合支援センターハナミズキ」、発達障がいのある学生の社会的・職業的自立に向け専門的な教育を行う「みなと高等学園」、病院機能を持つ社会福祉施設「徳島赤十字ひのみね総合療育センター」、さまざまな理由から家庭で養育できない乳幼児をお預かりする「徳島赤十字乳児院」の四施設を設置。それぞれの専門性を生かした支援をはじめ、相互の連携や外部機関との協力により、乳幼児期から成人期まで各ライフステージに応じた支援を行っています。



徳島赤十字ひのみね総合療育センター

心身に障がいのある方が利用できる、病院の機能を持った福祉施設



徳島県立みなと高等学園

病弱または知的障がいを伴う発達障がいの生徒を対象とする特別支援学校



徳島赤十字乳児院

様々な理由により家庭で養育できない乳幼児を養育する施設



徳島県発達障がい者総合支援センター

発達障がいのある方やご家族に対し、相談や支援を行う発達障がいに関する総合窓口



徳島赤十字ひのみね総合療育センター
徳島赤十字障がい者支援施設ひのみね
の活動と役割

当センターは、福祉施設と医療施設としての機能を併せ持つ治療・看護・保育・リハビリなどの総合支援施設として、利用児者が自立した生活を送れるよう支援しております。その中で、十八歳未満の肢体不自由児及び重症心身障がい児を対象とした医療型障がい児入所施設と、十八歳以上の重症心身障がい者を対象とした療養介護について、一体的な運営を行っております。

また、障がい者支援施設を併設しており、十八歳以上で常時介護が必要な障がい者に対し、生活介護と施設入所支援のサービスを提供しています。

平成二十四年から当施設を含めた徳島県発達障がい者総合支援センターハナミズキ、徳島県立みなと高等学園、徳島赤十字乳児院を発達障がい者総合支援ゾーンとして、各施設が連携し発達障がい児者やその家族の方々に対して支援を行っています。

今後、総合的な福祉サービスを提供できる施設として、より広

い範囲の地域の障がい児者関係の方々に対応できるよう、積極的に取り組んでいきます。

徳島赤十字ひのみね総合療育センター
徳島赤十字障がい者支援施設ひのみね園長
中津 忠則さん

徳島県立みなと高等学園の
活動と役割

徳島県立みなと高等学園は、平成二十四年四月に開校した全国で初めての病弱または知的障がいを伴う発達障がいの生徒を対象とした特別支援学校です。高等部のみを設置し卒業後の就労に向け、普通教科の学習に加え、校外では企業や就労支援施設等と連携した現場実習を、校内では販売実習、木工、園芸、清掃、介護等の実習を行っています。これらの学習を通して自己管理能力や集団生活への適応能力、働くための基礎的・基本的な知識や技能、働く意欲や態度等を養い、社会的・職業的に自立した心豊かな人材の育成に取り組んでいます。また、巡回相談事業にも取り組み、県内の高等学校に在籍する発達障がい等の生徒に対する支援も行っています。

徳島県立みなと高等学園校長
青木 秀雄さん